



▲いも煮会の準備をする子どもたち

きょういくの ページ

長泥で「までいスクール」

地区の子どもたちを地区全体で育てよう。

長泥子供会育成会（菅野一廣会長）は、地区の子どもたちが集まって一緒に勉強やスポーツ、遊びができる機会を増やそうと、「長泥までいスクール（土曜学校）」を開いています。

スクールは、7月から毎月1回、開かれており9月は10日（日）に児童18人が参加して行われました。子供会の行事（いも煮会）に合わせたため、日曜日の開催となりました。

当日、子どもたちは、朝9時に家族に送られて長泥コミュニティセンターに集合。早速、それぞれ持ち寄った宿題や自由課題に取り組んでいました。高学年の子どもが低学年の子どもたちを指導する姿も見られました。

宿題の後には、クイズやゲーム、ドッジボールなどで楽しみ、11時からは全員でいも煮会の準備です。男の子は火起こし、女の子は調理に分かれ、親子いっしょに作った昼食を食べて、午後には解散となりました。

菅野会長は「7月に試験的に取り組んだところ、子どもたち



▲宿題や自由課題に取り組む子どもたち

がとても喜んだので継続して開催することにしました。当面、月に一度のペースで行う予定です。子どもたちの世話は、育成会の会員が交代で当たっています。無理をせず、できる範囲で取り組んでいきたい」と話していました。

教育委員会の菅野教育長は「学校週5日制の導入により子どもが家庭や地域で生活する時間が増えている。学力向上、非行の予防などに地域全体で取り組む仕組みづくりが必要。初めての事業なので難しい部分もあると思うが、試験的でもいいので各地区で取り組んでほしい。教育委員会としても全面的に支援したい」と話していました。

子育て相談室 — お気軽にご相談ください —

お金の使い方

相農飯館分校の生徒通用口のところに、二宮尊徳の小さな石像が置かれています。この像を見るたびに、尊徳の「分限分度を守る」という言葉が頭に浮かびます。

わが子のお金の使い方、親の目から見ているかがでしょうか。分限分度を守っているでしょうか。子どもの携帯電話代が月々何万円なんて声を聞きますので、驚きです。

お金の使い方をお金にこだわってしつけをしてもあまり効果はありません。ふだんの生活で、次のようなことを身につくまでしつけると、分限分度を守る人間に育ちます。

それは、①靴を脱いだら揃える、父親が手本を示すと子どもの習慣になる、②椅子を使ったらテーブル（机）の下に入れる、③家族全員で食後の後片付けをする、の三つです。

お金のしまりは人間のしまりと言われています。また、その人のお金の使い方はその人の人生そのものであることを忘れないようにしたいと思います。

飯館中学校および相農飯館分校
スクールカウンセラー

海野和夫